

令和8年度
東京都小学校体育研究会

多様な動き をつくる 運動(遊び)部会

夏季合同研究会資料

研究
主題

自ら学び続ける力を仲間と共に身に付けていく体育学習
～子供が学びを深めていくための教師の在り方について～

令和8年度実証授業



日時：11月6日(金) 13:45～



会場：大田区立梅田小学校



单元名：第3学年 多様な動きをつくる運動
「うめだランドで冒険だ!!!」



授業者：主任教諭 近藤 篤志

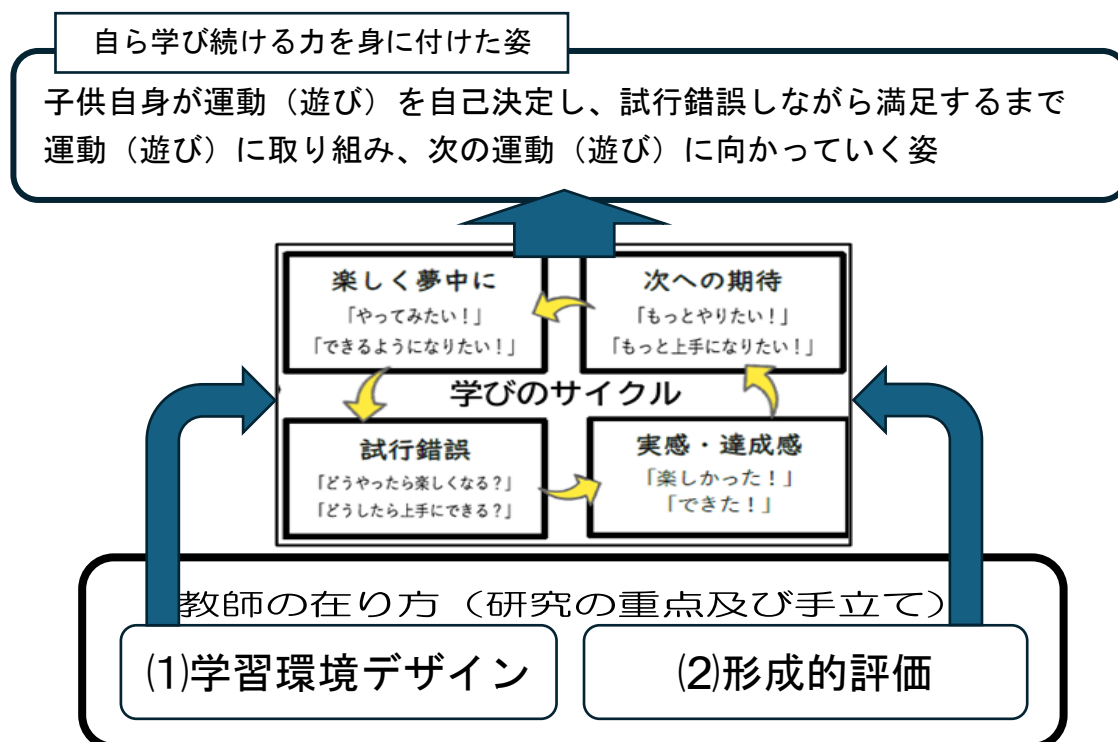


<研究の内容>

1 多様な動きをつくる運動（遊び）領域部会における研究主題の捉え方

本部会では、「自ら学び続ける力を身に付けた子供」を「子供自身が運動（遊び）を自己決定し、試行錯誤しながら満足するまで運動（遊び）に取り組み、次の運動（遊び）に向かっていく姿」と捉えている。

子供が自ら学び続けていくためには、子供が「やってみたい」「できるようになりたい」と思い続けることが大切である。そのために教師は、子供の自己決定と試行錯誤を促すための学習環境をデザインしていくとともに、子供の姿や動きの変化を丁寧に見取り、働きかけを見直し、子供の「学びのサイクル」を支えるというかわり方が必要であると考えている。



2 研究の重点

本研究では、「多様な動きをつくる運動（遊び）」において、子供が「自ら学び続ける力」を育てることを目指している。そのために、次の2つの手立てに重点を置いて授業づくりを行っていく。

(1) 多様な子供が「自ら学び続ける」ための学習環境デザインの工夫

本部会では、学習環境を、子供が自ら試行錯誤しながら運動に夢中になって学び続けられるよう、「人的」「物的」「心理的」「学習活動」で構成されるものと捉えている。多様な用具や運動遊びを通して、子供が運動を選んだり、動きを工夫したりしながら学びを深めていける環境づくりを大切にしている。

子供が学び続けるためには、教師が学習環境デザイナーとして、子供の「できる」「わかる」を積み重ねる活動を意図的にデザインすることが重要である。様々な視点から、安心して挑戦できる雰囲気や協働的な学びが生まれる環境を整えていく。

(2) 教師と子供による学習評価（形成的評価）の充実について

教師の言葉かけやかかわり方を明確にし、子供が自身の学習状況をメタ認知することを促すために、単元や一単位時間のねらいをより具体化することに取り組む。

より具体的なねらいを設定することで、教師はどの子供をどの形態で共有するかの重点が定まるとともに、子供は、「やってみたいこと」「できるようになりたいこと」がはっきりとし、自ら学び続ける力を教師と子供の両面から育むことができると考えている。

3 研究主題を実現するための手立ての工夫

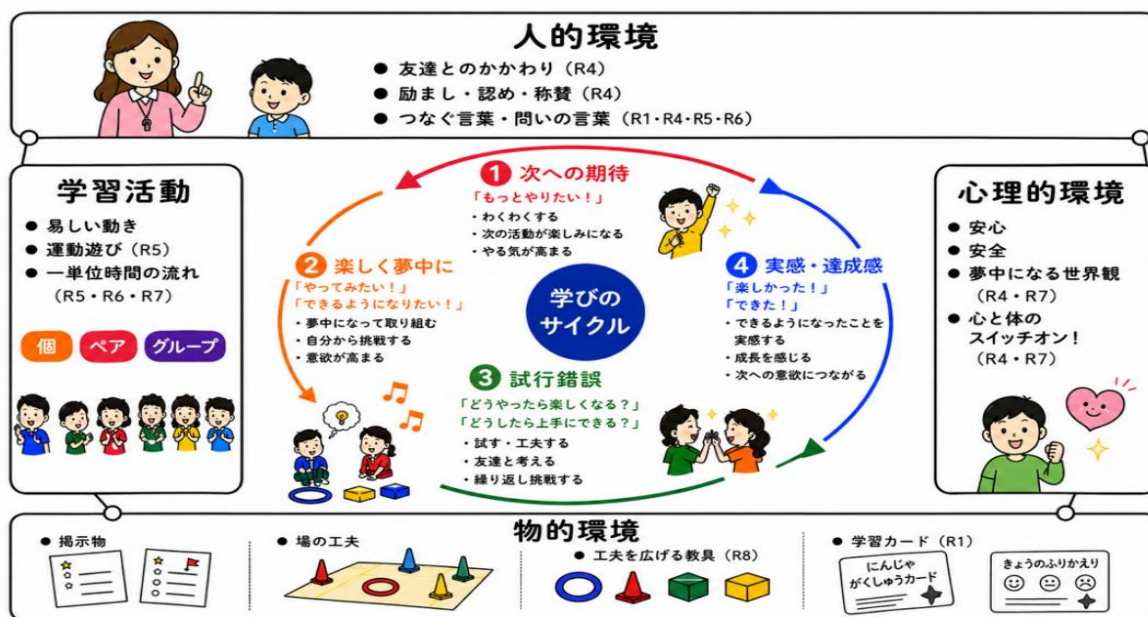
(1) 多様な子供が「自ら学び続ける」ための学習環境デザインの工夫

本部会では、学習環境を、子供が自ら試行錯誤しながら運動に夢中になって学び続けられるよう、「人的」「物的」「心理的」「学習活動」で構成されるものと捉えている。多様な用具や運動遊びを通して、子供が運動を選んだり、動きを工夫したりしながら学びを深めていける環境づくりを大切にしている。

今年度は、子供が工夫をより広げていけるための手立てとして、「物的環境」に重点を置き、研究を進めていく。

また、本部会が考える学習環境は、幼児教育の「環境」とのつながりを大切にしている。幼児教育とのつながりや違いを明らかにしながら、本部会が考える学習環境を示していきたい。

①学習環境の捉え



②工夫を広げる教具 (ケンステップ・スラックレール)

用具操作 (ボール・フラフープ・短なわ) では、他の教具を活用できるようにすることで、「子供の動きの幅が広がる」「動きの質が高まる」「やってみよう、できるようになりたい」という思いが増える」などと考えている。また、必然的に基本の動きが組み合わさるようになっていくと考える。

以下の教具の適切なタイミングで提示することが大切だと考え、子供のどんな姿や様子に応じて提示していくのかを明らかにしていく。

〈部内授業での教具活用の例〉

【ケンステップ】・・・ケンステップを縦に並べ、前にボールを投げてどこのケンステップまでキャッチできるかなど、移動を組み合わせる動きを引き出す。

【スラックレール】・・・スラックレールに乗り、ボールを投げ上げたり、フープを回したりすることで、バランスを組み合わせる動きを引き出す。

③幼児教育とのつながり

幼児教育における環境構成の考え方は、子供が自ら遊びを選択し、環境との関わりの中で試行錯誤しながら活動を広げていくことを重視している。この「環境と関わりながら主体的に学びを生み出す」という視点は、本部会における学習環境デザイン全体の基盤となる考え方である。そこで本部会では、幼児教育の環境構成の考え方を参考にして、子供が自分の興味や課題に応じて場や方法を選び、主体的に活動する姿を目指すために、発達段階や学習状況、実態を踏まえながら、教師が運動のねらいに迫る場や用具、ルールを意図的に構成・調整することが重要であると考えた。こうした学習環境デザインの考え方を基盤に、子供自身が選択し、試行錯誤しながら挑戦する中で多様な動きを生み出し、自分の成長を実感できる授業づくりを行っている。

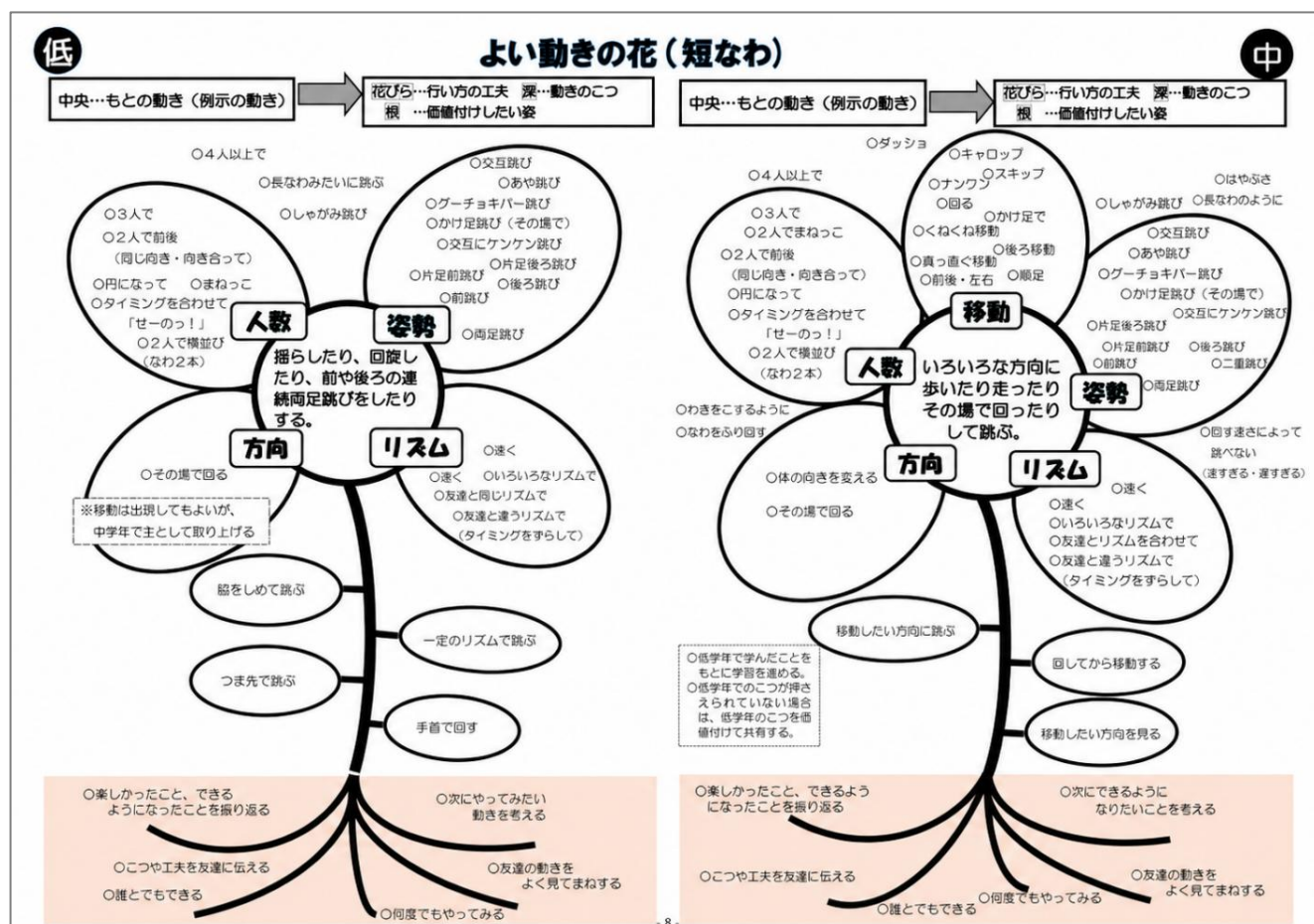
(2) 教師と子供による学習評価（形成的評価）の充実について

体づくり運動系領域の特性や、本部会の授業に取り組む1～4年生の発達特性を考慮し、形的評価について以下のように考えを整理した。

評価者	いつ	どのように
教師	①授業前 ②授業中 ③授業後	①一単位時間における目標の焦点化 ②問いの言葉がけ ③振り返り
学習者	・授業中	・教師による問いの言葉掛け ・子供同士の関わり ・振り返り

①一単位時間における目標の焦点化

一単位時間における目標を焦点化することで子供の学習状況を判断する際の規準となり、本時で目指す姿の達成が難しい子供にはより多くの支援を行うなど、授業中の指導改善につなげていくことができる。そのために、学習指導要領（解説）で示されている目標を基に、子供たちの実態に合わせて単元（小単元）の目標をより具体化していく。目標を具体化する際には「よい動きの花」の資料を活用し、子供に達成してほしいことや気付かせたいことを明確にする。



※R1に作成した「よい動きの花」は今年度、文言や動きの棲み分けを再検討し資料を作成する予定です。

「よい動きの花」
R1 作成資料



本部会では、まず多様な動きをつくる運動（用具操作 短なわ）における「思考力・判断力・表現力等」に焦点を当て、次のように段階的に具体化・焦点化した。

【学習指導要領（解説）から抜粋した目標】

思考力・判断力・表現力等
自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。

↓（具体化）

【小単元（用具操作 短なわ）における目標】

思考力・判断力・表現力等
①掲示や友達の動きを見て、自分がやってみたい動きを見付けている。 ②移動の仕方・姿勢・リズム・方向・人数を変えながら運動の行い方を工夫している。 ③自分がやってみたい動きができるようになるために友達のまねをしたり、試行錯誤したりして、こつを見いだしている。 ④見いだしたこつや工夫を友達に伝えている。 ⑤楽しかったことやできるようになったことを表現している。

↓（焦点化）

【一単位時間における目標（用具操作 短なわ 2時間目）】

思考力・判断力・表現力等
③自分がやってみたい動きができるようになるために友達のまねをしたり、試行錯誤したりして、こつを見いだしている。

②問いの言葉掛け

焦点化した目標を基に、子供に問いの言葉掛けを行う。問いの言葉掛けによって子供の思考を形成的評価すると共に、その子に合った支援を行うことができる。また、子供は教師の問いに答える過程で、自身の学習をメタ認知する。すべての子供に一様に問いの言葉掛けをするのではなく、前時の子供の姿や振り返りの内容から次時に重点的に関わる子供を定め、その子供を中心に支援を行うようにする。

目標（例）

○自分がやってみたい動きができるようになるために友達のまねをしたり、試行錯誤したりして、こつを見いだしている。

教師の問いの言葉掛け	子供の答え	学習のための形成的評価
「どうやったらそんなに上手に跳べるようになるの？」	「色々な跳び方をしていたら、つま先だけで跳ぶと、長く跳び続けられることに気付いたよ。」	色々な跳び方を跳ぶ過程で試行錯誤をし、自分なりにこつを見出すことができている。
「〇〇ができるようになるためにはどうしたらいいかな？」	「よく分からない。なんとなく跳んでいるよ。」	こつを見いだすことに苦手が見られる。 ↓ ・友達の動きを見るよう助言をしたり、教師と一緒にこつを考えたりする。 ・次時に重点的に支援をする。

③振り返り

本部会では、振り返りカードを子供が自己評価する手段として位置付ける。振り返りカードは、子供がその時間の学習を自由に振り返り、自らの学びや成長を見つめ直すことを目的とする。そのため、記述内容を重点目標に限定せず、従来どおり自由記述とする。

一方、学習としての形成的評価は授業中の子供の様子や発言、運動の姿などを基に教師が行う。振り返りカードは、教師の形成的評価を補完する資料として活用する。

<学習のための形成的評価の例>



<学習として形成的評価の例>



4 単元の指導計画（第3学年）

学習の流れ	時間	1・2	3	4・5	6	7	8	9	10・11	12	13	
	ねらい	動きを広げる	動きの質を高める	動きを広げる	動きの質を高める		動きを広げる	動きの質を高める	動きを広げる	動きの質を高める		
	0	○準備運動をする。「♪やればできるはず！～36の動き～♪」・曲に合わせて、易しい動きを取り入れた準備運動に取り組む。 ○めあての確認をする。・子供の実態に合わせてねらいを変えて、めあてを確認する。										
	10	★体を移動する運動★ 五歩鬼【這う・歩く・走る】 陣取りじゃんけん【跳ぶ・跳ねる】 まねっこらん【這う・歩く・走る】 UFO【這う・歩く・走る】			★体のバランスをとる運動★ くるっとじゃんけん【回る・バランスを保つ】 幸せなら手をたたこう【座る・立つ】 人工衛星【バランスを保つ】 へんしんへんしんだいへんしん【回る・バランスを保つ】			★「移動」と「バランス」を組み合わせ た運動★ たまご運び		★力試しの運動★ わにじゃんけん【支える動き】 たわら返し【押す、引く動きや力比べ】 大根抜き【人を押す、引く動き】 タクシー【人を運ぶ、支える動き】		
	20	・学び方を知る。 ・夢中になって取り組む。 ・友達のまねをする。 ・友達の助言を聞く。	・経験した運動から自ら選んで取り組む。 ・自分が選んだ運動を工夫しながら取り組む。	・学び方を活用して様々な運動をする。 ・行い方を工夫して運動に取り組む。	・経験した運動から自ら選んで取り組む。	・学び方を活用して様々な運動をする。 ・行い方を工夫して運動に取り組む。	・学び方を活用して様々な運動をする。 ・行い方を工夫して運動に取り組む。	・経験した運動から自ら選んで取り組む。				
	30	★用具操作の運動(基本的な動きを組み合わせる運動)★										
		★ボール★	★フープ★			★竹馬・缶ぼっくり・長なわ★		★短なわ★				
	40	・様々な動きや用場や教具を活用して、工夫して取り組む。	・「できるようにになりたい動き」に合った教具を場に用意して、取り組む。	・様々な動きや用意された場や教具を活用して、工夫して取り組む。	・「できるようにになりたい動き」に合った教具を場に用意して、取り組む。	・様々な動きや用意された場や教具を活用して、工夫して取り組む。	・様々な動きや用意された場や教具を活用して、工夫して取り組む。	・様々な動きや用意された場や教具を活用して、工夫して取り組む。	・様々な動きや用意された場や教具を活用して、工夫して取り組む。			
45	○整理運動・振り返りをする。											

5 本時の学習（13時間中の13時間目）

（1）本時のねらい

- 基本的な動きや基本的な動きを組み合わせた動きができるようにする。（知識及び運動）
- 自己の課題を解決するために、「動きのこつ」を見付け、友達と共有したり、試行錯誤したりしながら運動の行い方を試すことができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）

（2）本時の展開（第3学年）

学習活動	本時において特に焦点化する形成的評価の一例： ◎学びを深めている子供の姿（＋教師のかかわり） ☆配慮の必要な子供への支援
1 準備運動をする。 ♪やればできるはず！ －36の動き－♪ 2 学習のめあて、 流れを確認する。	☆夢中になって取り組むことができるように、教師と一緒に活動に参加して心と体のスイッチオンを促す。
3 「力試しの運動」 を選択して取り組む。 4 「用具を操作する運動」に取り組む。 やってみる時間 ↓ 学びの共有 ↑↓ もう一度やってみる時間	◎「できるようになりたい」「もっと上手になりたい」運動を選んでこつを考えている。 ◎何度も試行錯誤して取り組んだり、上手な友達に自ら助言を求め、自分の運動に取り入れたりしている。 ◎上手な友達を見付け、動きをまねして行っている。 （言語化を通してより深い学びに） 「動きを組み合わせ、上手にできたね」と価値付け、「どうやったら上手くできた」と問いかけ、感覚として得た楽しさやこつを言語化してより深い学びにつなげる。 （次の課題につなげてより深い学びに） 「動きを組み合わせ、上手にできたね」と価値付け、「さらに上手に動くためには、手の使い方や目線をどう意識するといいいかな」と問いかけ、自らの動きの質を高めるための課題を再設定する学びにつなげる。 （他の子供への共有を通してより深い学びに） 「動きを組み合わせ、上手につなげることができたね」と価値付け、「どんな工夫をして動きをつなげたか」を全体やグループ共有の場で発表することで、他の子供が新たな動きの組み合わせ方に気付いたり、自分たちの動きに取り入れたりする学びにつなげる。 ☆動きが停滞している子供には、これまでの学習内容を提示して「これまでやった中で一番楽しかった動きはどれかな」と問いかける。 ☆教師と一緒に他のグループの動きを見て「友達のあの動き、できそうかな」と視覚的なヒントを与えたりすることで、「次はこれをやってみようかな」と子供自身が選んで動き出せるような手立てを行っていく。
5 後片付け、 整理運動をする。 6 振り返りをする。	☆本時のねらいに沿った振り返り、小単元での成長が実感できるように、視点を意識した言葉かけを行う。

（3）実証授業で明らかにしたいこと

- ・子供が「自ら学び続ける」ための2つの手立ての効果



東京都小学校体育研究会 多様な動きをつくる運動（遊び）領域部会 令和8年度 実証授業

研究主題

自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習
ー子供が学びを深めていくための教師の在り方についてー

日時

令和8年

11月 6日 金 13時45分～

場所

大田区立梅田小学校

（都営浅草線 西馬込駅より徒歩7分）

講師

荒川区教育委員会 指導主事

森山 雄樹 様

授業者

大田区立梅田小学校 主任教諭

近藤 篤志



多様部会の
ホームページは
こちらから！



多様な動きをつくる 運動(遊び)部会

≡ 部員募集中! ≡

多様な動きをつくる運動(遊び)部会では、子供たちが「やってみたい!」「できるようにになりたい!」と、仲間との関わりの中で学びが自然と深まる姿を目指しています。

もっと自由で子供たちが夢中になる授業を。皆さんと一緒に学び合えることを楽しみにしています。

「体育の授業で困っていることがある!」「多様な動きをつくる運動(遊び)を勉強してみたい!」

「低学年の運動遊びを勉強したい!」などなど大歓迎です!!

「小体研には興味があるけれど部会にしようか・・・」とお悩みの方もぜひ1度、

多様な動きをつくる運動(遊び)部会にいらしてください。お待ちしております。

役職	≡ 部員紹介 ≡		電話番号
部長	 村上 太基	世田谷区立経堂小学校	03-3420-3278
副部長	 森田 慎	板橋区立常盤台小学校	03-3969-4601
副部長	 山本 将司	足立区立千寿双葉小学校	03-3888-6326
副部長	 五十嵐 渉	葛飾区立よつぎ小学校	03-3693-4640



 YouTube



多様部会チャンネル

 資料



シン運動遊び例集



授業ヒントシート

 ホームページ



小体研 多様部